

A型H1N1亜型インフルエンザ報道の影響に関する研究

The Effects of Japanese News Coverage on the H1N1 Influenza A Virus

海後 宗男、康 雪梅、蔡 莉、松枝 世、内山 祭、
金 餘珍、ジェニファー・エヴァ、楊 素茵

KAIGO Muneco, KANG Xuemei, CAI Li, MATSUEDA Sei, UCHIYAMA Matsuri,
KIM Yeojin, EVA Jennyfer, YANG Suyin

Summary

The H1N1 influenza outbreak - from the spring of 2009, which began in Mexico and quickly spread to the U.S. and throughout the world, was labeled a pandemic in June 11, 2009 when the WHO raised the influenza pandemic alert to phase 6. The outbreak, which received the heaviest news media coverage in Japan during April and May 2009, peaked in mid-May 2009. However, media coverage of the H1N1 influenza was comparatively limited during the months of July and August, during the months where risk of infection was actually increasing. This study conducted two identical surveys in May and September 2009 (May 2009, n=150; September 2009, n=148) among a panel of university undergraduate students in Japan to investigate the effects of media coverage of the H1N1 influenza outbreak and the changes in attitudes, knowledge and behavior right after the heaviest period of media coverage and after three months of limited coverage.

We discovered that anxiety towards the H1N1 influenza virus and the perception of importance of the issue was significantly higher in September 2009 when compared with the same students from May 2009. We believe this rise in anxiety and perception of importance was due to the actual rise in risk of contagion of the H1N1 influenza virus in September 2009. This study also found that among this sample of Japanese university students, information access was most commonly through television. Even though active information access by the Internet is available, a majority of the students in this sample preferred receiving information more passively. Also among this sample, we were not able to observe any differences or changes in either May 2009 or September 2009 in countermeasure

behaviors to avoid contagion of the H1N1 virus. Although awareness and heightened alert was visible among the sample in both periods, such changes in attitude did not lead to changes in behavior among this sample of students, such as acquisition of more information actively or increase in countermeasures.

Through assessment by a textual analysis of the open ended responses in this survey, we have interpreted that the anxiety towards the H1N1 influenza in May 2009 was due to the lack of information about the H1N1 influenza virus itself, and in September, we have interpreted the anxiety to be due to the powerlessness that the respondents were reporting due to the discontent towards the countermeasures being provided by the public authorities and lack of information on what could be done by individuals to prevent contagion. In September 2009, a large portion of the respondents commented on the Japanese government's measures on procuring vaccination medication for the H1N1 virus. We can infer that the university students, who were ineligible for receiving vaccination in this survey, were feeling dissatisfaction of the Japanese government's measures during this period.

Keywords: Risk perception, H1N1 influenza, media news, anxiety

キーワード：リスク認知、新型インフルエンザ、メディア報道、不安

概 要

米国とメキシコにおいて、（A型H1N1亜型）新型インフルエンザ・ウイルスのヒトへの感染例が確認されたことを受け、2009年4月25日、世界保健機関(WHO)は公式に新型インフルエンザに対する警戒を表明した。日本では、2009年4月から5月にかけて、各メディアで新型インフルエンザに関する報道が繰り返された。朝日新聞の報じた新型インフルエンザに関する記事数を調べたところ、報道量のピークが5月の中旬に確認されたのに対して、より感染リスクが高まった7月-8月における報道量は減少していた。本研究では5月と9月に、同じ調査協力者を対象に同じアンケート調査を2回行い、2回の調査データを分析・比較し、メディア報道が人々の新型インフルエンザに関する知識や意識、行動に与える影響性を明らかにした。調査の結果より、2009年9月の「新型インフルエンザ」に対する「不安感」や「重要度」は、2009年5月と比べて高くなっていたことがわかった。これは9月になって実際の感染リスクが高まっていたため、不安感や重要度も上昇したと考えられる。本研究で、マス・メディアの「新型インフルエンザ」に関する報道量は、5月と比べて、7月～8月には顕著に減少していることもわかった。2009年のような状況において、「新型インフルエンザ」に関して満足できるような情報を入手することが難しくなっていたと考えられる。そのため、自分の知識の十分さが減り、ゆえに政府対策と個人対策に対する満

足度が下がったといえる。

1 問題の設定

1 リスク認知とマス・メディア

「リスク(risk)」という言葉は、一般的に危険、恐れという意味で用いられる場合が多いが、リスク研究の分野では、「生命の安全や健康、資源や環境に、危険や損害など望ましくない事象を発生させる確率、ないし期待損失」(日本リスク研究会, 2000)というように捉えられている。一般の人々はリスクを認知する際、マス・メディアやその他の情報源から得られたリスク事象に関する様々な情報とそれまでの知識やそのリスクに対する感情などによって、直感に基づいてリスクを判断する場合が多い。リスク・アセスメントなどのように、客観的な数値をもとにおこなわれている評価ではないことが多く、そのため、人々が何をリスクと考えるかは、客観的なリスク評価に基づく専門家の判断とは大きく異なる(Slovic, 1987; Fischhoff et al., 1984)。このことにより、リスク情報を認知する際に用いる情報処理の仕方によって「認知バイアス」が起きることや、断片的なマス・メディア情報に基づくリスク認知によって客観的評価と乖離することがある。また、客観的な情報がないのに、メディアの断片的な情報を基に、何かに対してそれが危険であるとも考えることもある。特に、リスク・イメージは、「恐ろしさ」「未知性」「災害規模」の3つの要素によって構成されているので(Slovic, 1987)、これらの要素が含まれているマス・メディアやその他の情報は、リスクの認知を左右する。

2 新型インフルエンザの情報の流れ

2009年3月下旬より、メキシコや米国においてSwine-origin InfluenzaA型H1N1亜型(以降、新型インフルエンザ)の豚からヒトへの感染例及び、ヒトからヒトへの感染例が確認された。日本では2009年5月9日、国内初の感染者が確認された。厚生労働省発表のデータによると、5月31日付の累計感染者数は376人、7月24日には4986人、8月16日には9776人であった。さらに、8月15日に国内初の死亡者が発生した。以上のデータより、5月から8月にかけて、新型インフルエンザの感染リスクが増大していた。

2009年の新型インフルエンザ感染者や死亡者の急速な増加によって、各国の新型インフルエンザ対策も強化された。2009年10月24日、アメリカ政府は、オバマ大統領が2009年の新型インフルエンザ(H1N1型)について国家緊急事態を宣言したと発表した。また2009年10月23日、米疾病対策センター(CDC)は、新型インフルエンザが米国内50州のうち46の州に蔓延していると発表した(ワシントン、2009年10月24日、ロイター)。日本においては、厚生労働省が2009年4月28日に「新型インフルエンザ対策本部」を設置し、国民に新型インフルエンザに関する情報や個人の対策に関する情報を提供していた。

しかし、人々は新型インフルエンザに関する情報を得るために、公的機関ではなく、一般メディアを利用する場合が多い。2008年8月から9月に2032人を対象として実施された東京都生

活文化スポーツ局発表の「都民生活に関する世論調査」によると、新型インフルエンザ発生時における情報の入手先として「テレビ」と答えた割合が95.5%と最も多く、次いで「新聞」が53.3%、「ラジオ」が19.0%と続いた。多くの人が情報源としてマス・メディアを利用していることが判明した。

また、東京都が行うべき対策として「新型インフルエンザに関する正しい知識を普及する」と答えた割合が63.4%と最も高かった。しかし、情報源として公的機関の広報を利用する割合は、「東京都や区市町村のホームページ」が9.5%、「東京都や市区町村の広報紙」が8.5%と低かった。これらの結果より、人々は新型インフルエンザに関する正しい知識の普及を重要視している一方で、情報源として公的機関の広報を利用する割合が低く、多くの人がマス・メディアを利用していることがわかった。日本において、メキシコ発の新型インフルエンザの初めての感染者が確認された2009年5月と比較して、新型インフルエンザによる感染リスクが高まった2009年9月におけるメディアの報道量は減っている。

朝日新聞のデータベース「聞蔵」の検索の結果、新型インフルエンザに関する記事数を調べたところ、5月の中旬頃は、多い日には1日100件を超え、月平均71.25件であった記事数が、7月-8月は1日に20件程度と減少していた（図1）。この結果より、5月と9月を比べると、人々の「新型インフルエンザ」に関する情報への接触量に差があると示唆できる。

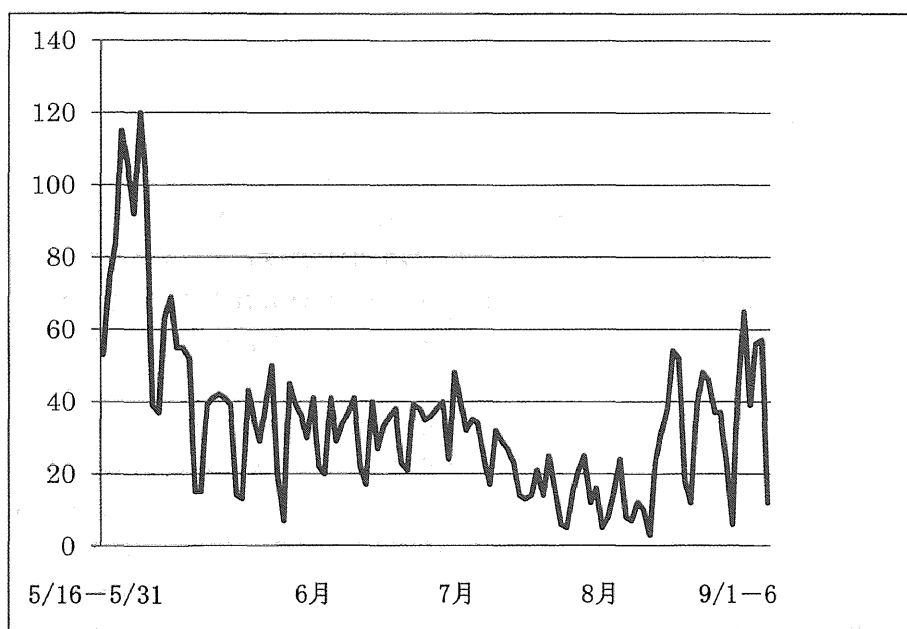


図1 月別新型インフルエンザ報道量の比較（朝日新聞データベース「聞蔵」より）

3 本研究の目的

今回の新型インフルエンザの流行に関して、多くの人が情報源としてマス・メディアを利用していると想定される。実際の感染リスクの高まりに反して、マス・メディアの報道量が減少することによって、新型インフルエンザに関する知識、意識や行動に影響があると考えられた。

本研究では、2009年において新型インフルエンザに感染する危険性がある、メディア接触量が多いと考えられる日本の大学生を対象に以下のRQに基づいて調査を行った。

RQ：新型インフルエンザに関するメディア報道量が増大している2009年5月期と、より感染リスクが高まっている2009年9月期において、新型インフルエンザに関する人々の知識や行動、意識にどのような変化がもたらされたか？

II 調査

1 調査の概要

本調査では茨城県の国立T大学の大学生を調査対象として、異なる時期に同じ内容の調査を2回行った。調査時期は1回目が2009年5月25日～26日、2回目が9月7日～8日である。調査対象の年齢は18～21歳、5月の有効回答数は150(男＝86名、女＝64名)、9月の有効回答数は148(男＝86名、女＝62名)であった。質問紙には以下の調査項目が含まれている。

表1 質問項目内容一覧

項目	項目内容
1	普段、ニュース情報を最も多く得ているメディアは何か
2	「新型インフルエンザ」について最も多くの情報を得たメディアは何か
3	現在「新型インフルエンザ」について不安や恐ろしさを感じているか
4	世界的に「新型インフルエンザ」の問題は重要だと思うか
5	「新型インフルエンザ」について自分の知識は十分だと思うか
6	「新型インフルエンザ」について自分から積極的に情報を得ようとしたか
7	自分の「新型インフルエンザ」対策は万全だと思うか
8	日本政府や医療機関の「新型インフルエンザ」対策は万全だと思うか

2 データ分析結果

(1) 平均値と標準偏差

各項目の平均値と標準偏差から以下のことが確認された。新型インフルエンザに対する不安感や重要度、また個人的な対策の満足度の平均値は上昇している。それに対して、新型インフルエンザの知識の十分さや積極的な情報入手、政府の対策に関する満足度の平均値は下がっている(表2)。

表2 平均値と標準偏差

	5月(N=150)9月(N=148)			
	M	S D	M	S D
項目3	2.83	1.16	3.08	1.10
項目4	3.77	.92	3.83	.84
項目5	2.70	1.05	2.66	.97
項目6	3.05	1.13	2.57	1.11
項目7	1.95	.93	2.07	.94
項目8	2.98	0.96	2.70	0.86

(2) 情報行動

メディア使用に関する調査から以下のことが分かった。

①質問項目：普段、ニュース情報を最も多く得ているメディアはどれですか？

最も多く利用されているメディアはテレビで、5月は42.0%、9月は43.9%という回答を得られた。パソコンによるインターネット利用がそれに続き、5月は30.0%、9月は36.5%であった。パソコンによるインターネット利用率と携帯サイトの利用率を合わせると、5月は50.0%、9月は48.7%と、テレビの利用率より高くなっている。この結果より、テレビとインターネットが本調査の被調査者である大学生の主な情報入手メディアであることが分かる(表3)。

表3 ニュースメディアの使用頻度の比較 (単位: 人)

	5月	9月
新 聞	4.7% (7人)	5.4% (8人)
テ レ ビ	42.0% (63人)	43.9% (65人)
ラ ジ オ	2.0% (3人)	1.4% (2人)
インターネット	30.0% (45人)	36.5% (54人)
携 帯 サ イ ト	20.0% (30人)	12.2% (18人)
そ の 他	1.3% (2人)	0.7% (1人)

②質問項目: 「新型インフルエンザ」について最も多くの情報を得たメディアはどれですか?

「新型インフルエンザ」について最も多くの情報を得たメディアとして、テレビが5月は47.3%、9月は55.4%と最も高い割合をみせた(表4、表5)。この結果は2008年8月～9月に実施された、東京都生活文化スポーツ局発表の「都民生活に関する世論調査」と同様の傾向を示している。これより「新型インフルエンザ」の情報源として最も多く利用したメディアもテレビであることが分かった。

表4 新型インフルエンザの情報源 (単位: 人)

	5月	9月
新 聞	2.7% (4人)	3.4% (5人)
テ レ ビ	47.3% (71人)	55.4% (82人)
ラ ジ オ	1.3% (2人)	0.7% (1人)
インターネット	27.3% (41人)	26.4% (39人)
携 帯 サ イ ト	18% (27人)	7.4% (11人)
そ の 他	3.3% (5人)	6.8% (10人)

表5 テレビの使用頻度（単位：人）

	5月	9月
必ず毎日	12.7% (19人)	10.8% (16人)
ほぼ毎日	32.0% (48人)	34.5% (51人)
週に数回	24.0% (36人)	22.3% (33人)
月に数回	8.0% (12人)	17.6% (26人)
全くない	23.3% (35人)	14.9% (22人)

③質問項目：現在、「新型インフルエンザ」について不安や恐ろしさを感じていますか？

上記の質問項目に対して、不安を「ある程度感じる」及び「非常に感じる」と答えた人の割合は、5月には38.7%、9月には46.6%と増加している。それに対して、不安を「全く感じない」及び「あまり感じない」と答えた人の割合は、5月には46.7%、9月には37.2%と減少していた（図2）。

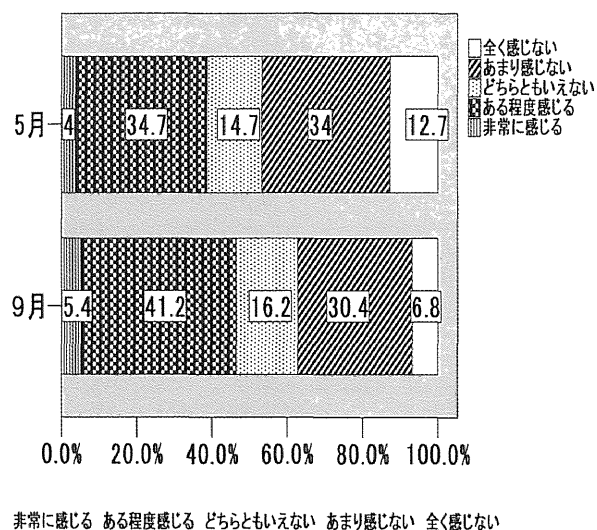


図2 不安感の月別比較

5月の平均値と9月の平均値を比較する t 検定を行ったところ、 $t(296)=1.90, p<.10$ と、有意な傾向がみられた。以上の結果より、5月と9月において、新型インフルエンザに対する不安に有意差があることが示唆できる。

④質問項目：世界に「新型インフルエンザ」の問題は重要だと思いますか？

「新型インフルエンザ」問題の重要度を尋ねたところ、5月には「ある程度思う」及び「非常にそう思う」と回答した割合が74%、9月は77.7%と、5月と9月のいずれの時期においても重要視されていることが分かった。一方で、「全く思わない」及び「あまり思わない」と答えた人の割合はそれぞれ14%、9.5%であった（図3）。

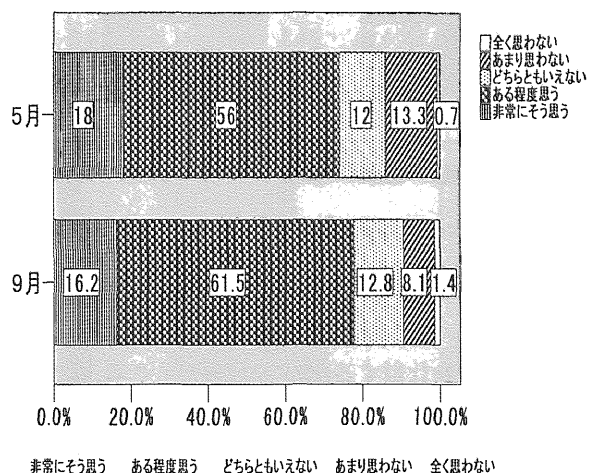


図3 重要さの月別比較

5月の平均値と9月の平均値を比較するt検定を行ったところ、 $t(296) = .56, n.s.$ と、有意差は確認できなかった。

⑤質問項目：「新型インフルエンザ」について自分の知識は十分だと思いますか？

上記の質問項目に対して、「全く思わない」及び「あまり思わない」と回答した人は、5月は45.3%、9月は50.7%であった。それに対して、「ある程度思う」及び「非常にそう思う」と答えた割合は、5月に26.7%、9月に25.0%と、大きな違いは確認できなかった（図4）。

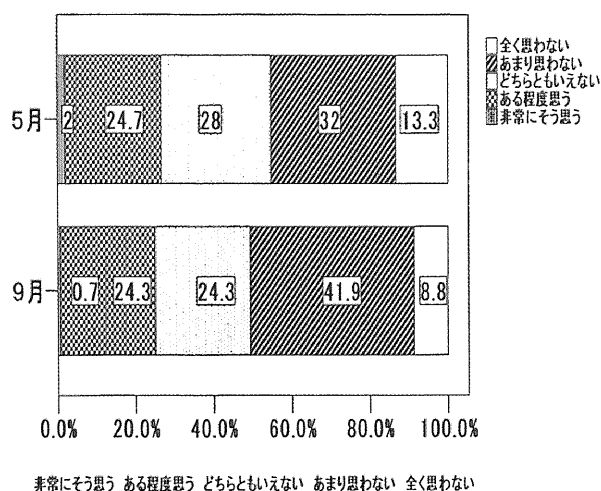


図4 知識の十分さの月別比較

5月の平均値と9月の平均値を比較するt検定を行ったところ、 $t(296) = .32, n.s.$ と有意差は確認されなかった。

⑥質問項目：「新型インフルエンザ」について自分から積極的に情報を得ようとしていましたか？

上記の質問項目に対して、「全くしていない」及び「あまりしていない」と答えた割合は、5月に36.7%であったのに対して、9月は54.1%であった（図5）。

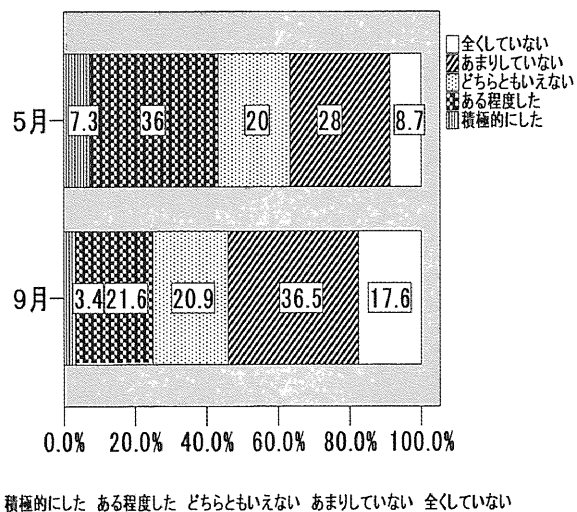


図5 積極的な情報入手に関する月別比較

さらに、積極的な情報入手に関して、5月の平均値と9月の平均値を比較するt検定を行ったところ、 $t(296)=3.73, p<.01$ と有意差が確認された。この結果より、新型インフルエンザについて、5月はより積極的な情報入手を行っていたことが分かった。

⑦質問項目：自分の「新型インフルエンザ」対策は万全だと思いますか？

上記の質問項目に対して、自分の「新型インフルエンザ」対策は万全だと「全く思わない」及び「あまり思わない」人の割合は、5月には74%、9月には72.3%であった。「ある程度思う」及び「非常にそう思う」人の割合は、5月には6%、9月には8.2%であった（図6）。

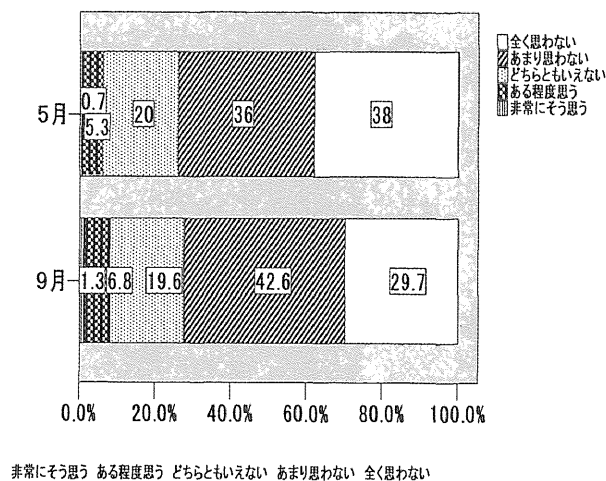


図6 自分の対策の万全さの月別比較

5月の平均値と9月の平均値を比較するt検定を行ったところ、 $t(296)=1.18, n.s.$ と有意差は検証されなかった。「新型インフルエンザ」対策について「全く思わない」人の割合は、5月の38%から9月の29.7%に減少していることが分かった。しかし、「全く思わない」及び「あまり思わない」と回答した人の割合の変化はあまり見られなかった。

⑧質問項目：日本政府や医療機関の「新型インフルエンザ」対策が万全だと思いますか？

上記の質問項目に対して、「全く思わない」及び「あまり思わない」と答えた人の割合は、5月には30.7%、9月には41.9%であった。対して、「ある程度思う」及び「非常にそう思う」と答えた人の割合は、5月には32.7%、9月には18.3%と減少していた(図7)。

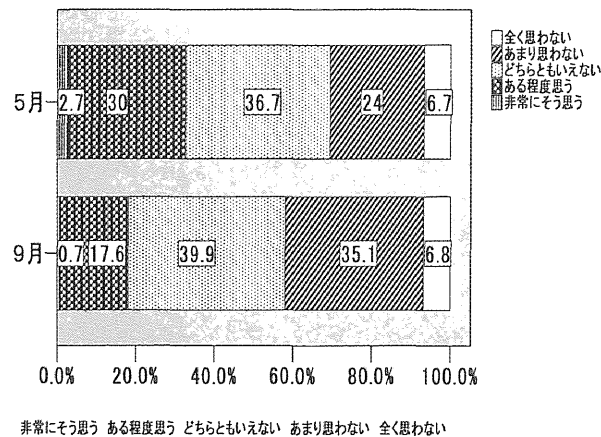


図7 政府対策万全さの月別比較

5月の平均値と9月の平均値を比較するt検定を行ったところ、 $t(296)=2.63, p<.01$ と有意差が確認された。以上の結果より、5月から9月にかけて、政府対策に対する不安が高まっていたことが示唆される。

(3) 相関分析

本研究では、「新型インフルエンザ」に関する知識と積極的な情報入手との間の関連性を調べるために、相関分析を行った。その結果、5月に ($r=.533, p<.01$)、9月に ($r=.527, p<.01$) と、いずれの時期においても正の相関が検証された。

また、「新型インフルエンザ」に関する積極的な情報入手と「不安」との間に相関分析を行った結果、正の相関が検証された。報道量が最も多かった5月 ($r=.248, p<.01$) と、報道量が沈静化した後の9月 ($r=.424, p<.01$) を比べると、9月の相関が強いことが分かる。

さらに、「新型インフルエンザ」に関する知識と自分の対策への自信との間で相関分析を行ったところ、5月 ($r=.337, p<.01$)、9月 ($r=.387, p<.01$) と、いずれにおいても正の相関が示された。この結果は、東京都が行うべき対策として特に重要なものは「新型インフルエンザに関する正しい知識を普及する」と回答された、東京都生活文化スポーツ局発表の「都民生活に関する世論調査」と一致している。

新型インフルエンザについての「不安」と「重要度」との間の相関分析結果は、5月 ($r=.475, p<.01$)、9月 ($r=.404, p<.01$) と、正の相関があった。「新型インフルエンザ」に対する不安が高まるにつれて、一層重要視される傾向がみられる。

III 考察

2009年5月に日本国内で初の新型インフルエンザ感染者が確認されて以来、その感染者は増加し続けたが、その後、全世界的に新型インフルエンザの猛威は収束に向かい、2010年に入ってからあまりニュース項目として報道されなくなった。ただし、2009年において、パンデミックとしての猛威をふるった。

2009年8月15日には沖縄県でインフルエンザ感染による初めての死者が確認され、その後も感染者と死亡者は増加していたにもかかわらず、感染者発生 of 初期と比べて、感染の拡大によって感染リスクがより高まっていた9月において、メディアの報道量は減少傾向をみせていた。

そこで、本研究では以下のRQに基づいてメディア報道が人々の新型インフルエンザに関する知識や意識や行動に与える影響性の調査を行った。

RQ：新型インフルエンザに関するメディア報道量が増大している2009年5月期と、より感染リスクが高まっている2009年9月期において、新型インフルエンザに関する人々の知識や行動、意識にどのような変化がもたらされたか？

調査の結果より、2009年9月の「新型インフルエンザ」に対する「不安感」や「重要度」は、2009年5月と比べて高くなっていたことがわかった。これは9月になって実際の感染リスクが高まっていたため、不安感や重要度も上昇したと考えられる。

本研究で、マス・メディアの「新型インフルエンザ」に関する報道量は、5月と比べて、7月～8月には顕著に減少していることもわかった。2009年のような状況において、「新型インフルエンザ」に関して満足できるような情報を入手することが難しくなっていたと考えられる。そのため、自分の知識の十分さが減り、ゆえに政府対策と個人対策に対する満足度が下がったといえる。

本調査では、大学生が情報を最も多く得ているメディアは、視聴者へ一方的に情報を提供する傾向のあるテレビであることがわかった。これより、以前と同様で若者が情報を得る姿勢が受け身であることが窺える。インターネットを使用することで、入手することができる情報は多い。しかしながら、積極的に情報を入手する人の割合が少ないことから、大学生においては、必ずしも能動的な情報入手は行われていないと言えよう。さらに、「新型インフルエンザ」に対する意識が高まっても、積極的な情報入手や対策行動には変化が見られないことが示唆された。これは、意識の高まりが、実際の情報入手や対策行動に結びついていないためであると考えられる。

新型インフルエンザについての自由記述の内容としては、新型インフルエンザに対する不安感、政府や学校における対策への不満、メディアに対する不満が多数を占めていた。しかし、その一方で「特に身近には感じていない」などの答えもあり、一部では新型インフルエンザが差し迫った問題として認識されていないことが窺える。

2009年5月の不安感は、新型インフルエンザに対する知識の不足から生じた不安感である。そ

れに対して、2009年9月の不安感は、実際の感染リスクが上昇している中で、公的な対策への不満や、個人でできる対策に関する情報の不足などから無力感を感じているためだと考えられる。2009年9月の自由記述回答の中で、政府の対策の問題としてワクチンについて指摘する回答者も多くいた。しかし、調査対象である大学生はワクチンの接種対象外であるため、ワクチンの問題も政府対策の不満へと変わっていくと考えられる。

今回の調査結果は、質問紙の質問項目による限定的な側面を測定するものであり、また被調査者も少なかったため、新型インフルエンザに関するメディア報道の影響性をさらに説明するために、さらなる研究が必要であろう。

参考文献

- Fischhoff, Baruch, Lichtenstein, Sarah, Slovic, Paul, Derby, Steven L. and Keeney, Ralph 1984. *Acceptable risk*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Slovic, Paul 1987. "Perception of risk." *Science* 236, pp. 280-285
- 吉川肇子 1999. 『リスク・コミュニケーション』. 福村出版.
- 厚生労働省2009. 「新型インフルエンザに関する報道発表資料」
<http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/houdou.html>
- 厚生労働省2009. 「新型インフルエンザ対策関連情報」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>
- 東京都生活文化スポーツ局2008. 「東京都民生活に関する世論調査」
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2008/12/60icp108.htm>
- 日本リスク研究会 2000. 『リスク学辞典』. TBSブリタリカ.
- 朝日新聞における新型インフルエンザに関する記事数 (聞蔵)
<http://database.asahi.com/library2/main/start.php>
- 「米大統領、新型インフルで「国家緊急事態」を宣言」、ロイター、2009年10月25日
<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPJAPAN-12103720091025>

参考資料1

5月自由記述

不安に関する記述

1. 第二波が発生するのが怖いと思う
2. 変異がどこまで進んでいるか不安。今回のことでH5N1に対して何らかの予行ができれば良いと思う
3. いづろ終わるかが不安

4. 怖いです。**祭が中止になったら困る
5. いつ収束するか全くわからないので不安。夏休みが短くならないか心配
6. 友人や家族に感染ないかと心配?
7. アメリカ初めて死者が出たので、日本でも同じことが起こらないかが心配です
8. 兵庫県に親戚がいるので心配です
9. 諸外国に比べ、日本では急速に広がっているような気がして不安です
10. 大流行するのが怖い
11. 世論では弱毒性だから大丈夫だという意見が多いが、このインフルエンザが活動を弱めるこの時期にあれだけの感染者が出た異常性に気付くべき
12. 国内感染者が増えているので、気をつけねばならないと思う
13. T市に來れないんじゃないの?
14. 隔離されると寂しくなります
15. 首都圏に感染者が出るのも時間の問題だと思う
16. 感染したくありません
17. 死に至るわけではないから別にいいけど、すれ違ったくらいでも感染するというのは恐ろしく思う
18. 感染経路、原因などの調査を早く進展させてワクチンを作るなど、安心できる環境にもどってほしい
19. 日本国内で発生はしているけれど、なるべく外に出ないように買いためする程ではないようだしでも外出は控えろとも注意される。色々といまいで対応に、困る
20. 学内、宿舍という閉じた空間で感染者が出たりしたら困ると思う
21. あまり気をつけてニュースを見ていなかったのも、もっと気をつけなければいけないと思った
22. 首都圏に広がるのも時間の問題だと思う。インフルエンザにかかったからといってその人たちが周囲の人から影口をたたかれたりするの是非常に理不尽だと感じる

休校に関する記述

1. T市に感染者が出て、休講になると、夏休みになるであろう補講が長期休業の予定がたてにくくなる都合が悪くなる原因になる
2. 早く休校になってほしい
3. 「新型インフルエンザ」の影響で休講になり、**祭が中止になったりすると困る
4. 夏休みが短くなるなら、休校はいりません
5. 休校になったとして、それで本当に流行に対処できるとは思えない
6. 今休校になられると色々都合が悪いので早く鎮静化してほしいと思う。あと都市機能麻痺されるのも嫌だ

7. **祭が実行されるのかがとても気がかりです。また、大学が休講になると、夏季休暇は
ず削られるということにもとても不便や怒りを感じます。予定も色々あるので。休講の場
合、宿舎生じゃ帰省しなければならないと聞きましたが、ほとんどが電車で、東京を通過
すると思います
8. 休校は嫌過ぎる
9. 本当に季節性のものとそんなに変わらないのなら安心です。ただ正直いまは一週間くらい
休校になって実家でゆっくり休みたいです
10. 休校にならないで欲しいです
11. 大学全学休校にならないようにみんなで気をつけましょう
12. 全学に休校になったら困る
13. いつ関東圏で感染者がでるか心配、休校にならないと良いと思う
14. 授業が平常通り進んでくれることを望んでます

危険性の低さに関する記述

1. あんまり危険じゃないんじゃないかと思う
2. ほとんどの人が抗体を持っているので、あまり騒ぐことじゃないと思う。私達学生は多分
持っていないので、手洗いうがいをしっかりしたい
3. まだ弱毒性なので強毒性が出現するまで問題ない
4. 新型インフルエンザに対して、そこまで恐怖を感じません。弱毒性なのが一番の要因だと
思います。むしろいまのうちにかっておいて免疫をつけておいたほうが得なのではない
かと思っています
5. そんなに恐ろしいものなのか？
6. 弱くね？
7. 感染力は強いが弱毒性であるため、感染すること自体を恐れる必要はあまりないと感じ
た。また、国や地方公共団体が行う感染防止策は、季節性インフルエンザと同程度に留
め、あとは個人の注意（手洗い、うがいの励行やマスク着用など）に委ねても良いと思う
8. 感染したら早めに病院行けば特に心配することはないと思う
9. 季節性インフルエンザぐらいの気持ちで行けばいいと思う
10. 新型のウイルスで、ワクチンやその他の対処の仕方やウイルスの感染力が未知数だから世
界は混乱しているのだと思うけど、実際は、病状もあまり深刻ではないと聞いているので
心配していない

メディアの不満に関する記述

1. マスコミの報道のやり方のおかしさ
2. いろいろな情報をまとめて考えると、「季節性インフルエンザ」とあまり変わらないらし
いので、少し騒ぎすぎではないかと思う。確かに、インフルエンザにかかると、かなり辛
い思いをする。また政府も柔軟な対応をして欲しい

3. 最初は騒いだりしていて 今は そんなに話題にしなくなったりと ころころ態度変わってこっちとしてはどうすればいいのか少しとまどった
 4. テレビやインターネットでの情報が安定しない。人によって言っていることがバラバラなので、どの情報を信じていいのかわからない
 5. さわぎすぎ
 6. 日本と反応が g d g d すぎる
 7. 政府やマスメディアは騒ぎすぎだと思う
 8. 弱毒性なのに今の対応は少しやりすぎかとも思います
 9. 情報を得るのは非常に重用ですが、メディアがやりすぎかとも思います
 10. 弱毒性だと伝えられていたのに政府は過剰反応しすぎだと思う
 11. 季節性と症状は大差ないのだからあまり騒ぎすぎる必要はないと思う
 12. 感染力が非常に強いとのことですが、きちんと対処すれば通常のインフルエンザと同様に治療できると聞いたので、近頃の世間の対応は少々大げさなのではないかとも思います
 13. テレビ等で煽てられすぎだと思います。手洗い、うがい等で予防できてタミフルも効くなら普通のインフルエンザと変わらないじゃないですか
 14. 世界的に見れば死者も出ているが、新聞等を見る限りではそれほど毒性は強くないようなので、あまりに過剰に反応する必要はないと思う。新型インフルエンザを警戒力あまり感染者でない患者まで受診拒否されたなどという記事も読んだが、内情をよく知らないままパニックになるのは避けるべきだ
 15. 騒ぎすぎ
 16. 季節性インフルエンザとあまり変わりがないように思われるのに、メディアや不機関があまりにも過剰反応しているような印象を受けている。(私の情報収集不足なだけかもしれないが…)
 17. 大学のHPの対応に不満。日本で感染者がでるまでは頻繁に情報を更新していたのに、でてからは全く更新しなくなった。また、休講についても「国内で出たら」→「関東…」→「茨城」…以下無限ループという無様な対応である
 18. 日本国民はよくTVをみて、信じているなと感じた
- 特に何も無い
1. 特にない
 2. 正直、よくわからない
 3. あんまり情報を得られないのでわかりません
 4. 特にないです。

対策に関する記述

- 1 対策をしっかりしなくてはいけないと考えている
2. 季節性インフルエンザが流行する冬季にはどのような対策をとるのか(ワクチンの製造ライン等)

3. 現在の対策の経験を将来的に起こるだろう。病気の流行に役立てられたらなと思っている
4. パンデミックは怖い、スペイン風邪のような強毒性のウイルスでは(現時点では)ないので、その点は良かったと思う。今回の新型インフルエンザの流行がパンデミック対策の教訓になればいいと思う
5. 新型インフルエンザが関東でも発症した場合、**祭が中止になってしまうことが残念です。せめて祭が終わるまで、と考えるのは不謹慎であれば、そうあって欲しいです

地元に関する記述

1. 地元の関西で多くの人々が感染しているから心配です
2. 私は母校が発症地となったので(神戸高校) 全然他人事とおもえなかった。地元の友人、親、後輩らが心配である

マスクに関する記述

1. マスクの売り切れ
2. マスクが手に入りません！
3. マスクを売るより全国支給にしたほうがいいんじゃないの政府。水際対策じゃなくて本格的に鎖国したほうがいいんじゃないかともおもう。あと情報隠しすぎではないかと

その他

1. ネットでは「やりすぎ」などと書かれ、それにも納得はするが、このくらいとりこんだ方が個人的には安心できる。政府に感謝
2. 海外に行く人は十分に気をつけてほしい
3. とりあえず、収まっているみたいでよかったと思う
4. 発生過程を知りたい
5. 大阪府知事がわざわざ東京に来たことは感染を広げる恐れのある行動だと思う。経済に影響が出るといえ、渡航禁止などをもう少しきびしくした方がよかったとおもう
6. 今よりもっと危険になる前に駆除されてほしい
7. 実家に帰省したらよけいにインフルエンザにかかりやすい気がする
8. これ以上日本で感染が拡大しないと良いと思っています。

参考資料 2

9月自由記述

不安に関する記述

1. 地元の友人の多くが新型インフルに感染していて驚いた
2. 今風邪をひいてしまったので新型インフルエンザじゃないか怖い
3. 怖い病気だと思う
4. 学内で広がらないか心配だ

5. まだT市ではあまり流行してないから深刻に考えられてないけど、流行りだしたら大変だとおもう
6. 死亡者も出ているので心配。身内や身近な人がかからないか怖い
7. 大学（2学期）が始まって感染が拡大するのではないかと心配している
8. 新型インフルエンザはもう消滅する事が無いのか不安に感じる。弱点は無いのか
9. 今若干風邪気味なので不安です。新型ではない、とは思いますが（というよりそう思いたい）高熱が出てないので、このまま治ってくれば良いと思います。手洗いうがいをごまめにするようにしたいと思います
10. 大事な人が接客業をしているので、感染したりしないか、心配です。自分のことはあんまり心配していませんか
11. この先どのように展開するか分からず、不安
12. 流行しているので脅威に感じる。しかし弱毒性でよかったと思う
13. 他国に比べワクチンの量が少なく、輸入に頼らざるをえない状況であることを知り、流行し始めてから時間が経過しているにも関わらず収まらないため不安を感じている
14. 最近持病持ちの人が新型インフルに感染することで合併症などを引き起こして重症化し、亡くなる事態が日本でも発生しているため、以前より不安を感じるようになった。学内でも感染者が発生したようであり、予防のためかマスクを付けている人を時々見かけるようにもなった。正直、このまま感染力や症状の深刻化が進むのではないかと心配になる事もあります
15. 冬になって北半球で大流行してしまったら怖い
16. 喘息の人たちが重症になっているので、喘息持ちの自分はその辺が非常に心配だ
17. ワクチンの生産がいつかないなどの問題がとても不安に感じる
18. これから秋冬にかけて感染は拡大すると思う。その中で、突然変異が起きて致死性の強いウイルスになってしまうのではないかと不安が自分の中では大きい
19. ワクチンが不足している。またワクチンの副作用がまだ完全に把握できていないということとで若干不安を感じる
20. 早く流行がおわって欲しい
21. 周りの人が死んでほしくないです（自分含め）
22. はやく流行がおさまるといいなあと思います
23. 感染してしまったら、仕方ない
24. 祭やスポーツ・デーが中止にならないことを切に願ってます
25. 冬にどうなるだろうかと思う
26. 学校にいとたくさんの人と関わるので不安。部活で試合が控えているのでうがい、手洗いなどはしているが心配
27. はやく流行がおさまるといいなあと思います

休校に関する記述

1. 休講になったら、その分の授業のうめあわせとして、長期休暇からけずられるのか
2. 現在T大で3人がインフルにかかっているから、そろそろ休講措置をとってもいいと思います

危険性の低さに関する記述

1. そんなに恐怖は感じない
2. なんとなく大丈夫だと思っている
3. なんとかあると思う
4. 新型インフルエンザに対するT大学の対応がコロコロ変わっていたことに対して、この大学は大丈夫なのかと感じた。世界中で騒がれている割には、自分は旅行したり、多くの人と接触しているがなんともないので、そこまで危険ではないと感じる。人類は「新型インフルエンザ」のような病気があったという間に滅ぶのではないかという不安にかきたてられた
5. 特に身近には感じていない
6. 恐ろしいとは思うが通常のインフルエンザと毒性があまりかわらないと聞いたので、あまりに気に。流行していなかった
7. 感染者が出たと聞いても、あまり不安感を感じないというのが正直なところ。学校側の対応も通常インフルエンザと変わらないし。ただ「インフルエンザの感染者が居ると思うと人ごみを歩きたくない」と言っている先輩もいたりして、もう少し気をつけなきゃいけないのかな・・・とは思いますが
8. 弱毒性なので、感染自体にはそれほど不安を感じない。強毒性のための対応だった当初の対応を改め、弱毒性であることを考慮した対策をとってほしい
9. 身近に例がないのであまり危機感がもてない。季節性インフルエンザでもある程度多くの人が亡くなっているはずなのに、メディアの取り上げ方が大きいのが気になる。でも、夏にこれだけ感染者がいると少し冬が怖い
10. 心配しすぎなくていいと思う
11. なんとかある

メディアの不満に関する記述

1. マスコミがさわぎすぎ
2. 日本人が騒ぎすぎだと思う海外では日本インフルエンザと呼ぶ人もいる
3. N5N1話題につなげていけるのか。マスコミの手のひら返しが面白い
4. メディアによってはじめ誇張された結果、死者まで出ている深刻さが伝わってこない
5. 反応が過剰だと思う。季節性インフルエンザのような対策・報道をすればいいと思う
6. CANADAやUSAなどの国に比べて日本ではそんなにたいへんではないのだ

7. 最初はメディアでさがられていたので警戒していましたが、メディアで取り上げられなくなるにつれて警戒心が薄れてしまいました。最近重症化するケースが増えているらしいので、うがい手洗いを徹底したいです
8. メディアによってはじめ誇張された結果、死者まで出ている深刻さが伝わってこない
9. 過剰に反応するひつようもなく、さわぐこともない。しかし大切なのは謙虚な心が皆に足りない
10. 新型インフルエンザに感染する情報が最近あまりメディアに取り上げられていないので現在のどのような状況なのかよくわからない。情報の受け身にならず、自分クラス住んで情報収集をしないとイケないと思う。大学の取り組みも、今なにをしているのかよくわからない
11. 国民生活に関わる事柄なのでもっとTV等で取り上げて欲しい

特に何もなし

1. 特になし
2. 特にありませんありがとうございました
3. もう賞味期限切れの話題な感がある

対策に関する記述

1. いつのまにか感染がひろがっていておどろいた。そのくせに新型が発現された時よりもさわぎたててないのは変だ。一人でも感染者がでたら休学とか発現されたときさわりといて今は消毒液あっちこっちにおいてるだけで休学とかにないところとか
2. 大学ホームページでマスク着用が呼びかけられているようにも関わらず、学生も教員の方も全くマスクをしていないことがとても不思議に感じる。マスク着用を呼びかけているならきつと強制すべきだと思う
3. 日本国内でも世界でも多くの死者が出ているし、早く効果的な対策がされると良いと思う
4. T大学は一度広まったらあつというまだと思うので早めの対策が必要だと思います。でも学祭はやりたい
5. 対策としてタミフルが挙げられていたと記憶していますが、タミフルを服用しても大丈夫なんでしょうか。以前タミフルを服用した人が自殺したと騒がれていたと思うのですが
6. 徹底するなら学校封鎖した方がいいと思います
7. 空港の警戒は解かない方がよかった
8. ニュースでも言っていますが、厚生省(?)がのんびりしていると思います

ワクチンに関する記述

1. 早くワクチンをみんなに与えてほしい
2. 早めにワクチンを打ってもらいたい
3. 早くワクチンを輸入しろ。しかも検査しろ
4. 一般人へのワクチン投与が必ずしも必要とは思わない。医者や薬剤師などを優先したほうがいいはず

5. 早くワクチンが完成して、感染が収まればいいと思ってます

自分の対策に関する記述

1. 自分の親が実際に新型にかかってしまったらしいので、本当に身近なところにまで来ているのだと感じた。大学内でも感染者がいるということを聞いたので、注意したい。このアンケートを機に自分の生活を見直す必要があると感じた
2. 十分に気をつけたいと思う
3. かかるとめんどくさい
4. かかりたくない
5. 予防をしっかりしなきゃ！
6. 感染したくない！
7. 感染して迷惑かけたくないなので、気をつけたい
8. 一人暮らしでインフルにかかると辛そうだなあと思います
9. ワクチンの対象外なので気をつけて生活したい
10. 一人暮らしなので、かかると面倒。一週間学校を休むのは困る
11. かかりたくない。というか、新型インフルエンザだけでなく病気したくないです
12. もう既にかかった友人もいて、ある程度話も聞いているので、生死について特に不安には思わないしかし、一人暮らしであり、周囲にも毎日授業に出席する必要のある人ばかりなので、実際にかかったとき看病してもらえない人は多少不安ではある
13. 死者もでているので、気をつけなければならないと思う
14. それぞれが健康管理に気をつけて、自分の体調を考えて行動することが予防のために大切だと思う
15. 体調管理に気をつける
16. 一人暮らしなので病気になっても自分で家事をしなくてはいけないので心配

その他

1. 何をしてもインフルの拡大は防げないと思っている。拡大した後を考えていきたい
2. 地味にやばい
3. 海洋研が休サーになるのに驚いた
4. 自分は感染しないと思っているのでマスクはつけない。そういう人が感染しているのではないのか
5. 「がんばれ政府！」ということが一番不安要素でもある
6. ショボくて良かった
7. 今までかかったことがないので、始めてかかるインフルエンザが豚だったらなんとなく嫌だ
8. 体の弱い人や病気をもっている人がかかると大変そうだと思う
9. 予定していた旅行が急に中止になると困る
10. 感染者が増えたためか、インフルエンザが発生しても周囲の人は落ち着いてる気がする